

発行・編集
協力

白川犬卒都婆地区中山間地域等協議会
白石市農林課・大河原地方振興事務所
農業農村整備部

平成十九年十月

白川犬卒都婆集落の昔と今 その2



白川犬卒都婆集落には子や孫に伝えたい方言や伝統文化や歴史があります。ここに地元に伝えられてきた方言、史実や伝統文化などを記します。

- | | | | | | |
|----|-----------------|----|--------|----|--------|
| 1 | 方言その一 | 7 | 方言その七 | 13 | 方言その十三 |
| 2 | 方言その二 | 8 | 方言その八 | 14 | 方言その十四 |
| 3 | 方言その三 | 9 | 方言その九 | 15 | 方言その十三 |
| 4 | 方言その四 | 10 | 方言その十 | 16 | 方言その十四 |
| 5 | 方言その五 | 11 | 方言その十一 | | |
| 6 | 方言その六 | 12 | 方言その十二 | | |
| 17 | 痕跡 | | | | |
| 18 | 京塚・七塚塚 | | | | |
| 19 | 石に刻まれた義経伝説(一) | | | | |
| 20 | 石に刻まれた義経伝説(二) | | | | |
| 21 | 「安永風土記御用書出」(一) | | | | |
| 22 | 「安永風土記御用書出」(二) | | | | |
| 23 | 見ざる言わざる聞かざる(石塚) | | | | |

参考文献

宮城県史
白石市史
刈田郡史
安永御用書出

1 方言

う	い	あ
うう うん つと つあ すい	いい ずま いでん さが びん ごつ ころた かだ り	ああ あち あず あぐ あつ あす あま あな あべ あわ り
そいう うっ うづ うば うい うし いた く き さん い	きいい ゆまた うご くろ つたり	ほあ ほけ じび ろう
	理屈 かか たり	かあ かり とす か
		兄さん の朝 勢
		多日 の 大勢
		ぐわ いわ る い

え やんべ
え びつ
え げすか
え ちよめ
え らすこい

い かげん
変い けい
だ いきらい
一 人前
か わい

お ったもん
お だつた
お かつた
お どんねえ
お どりげねえ
お ろめくねえ
お しょつぱか
お がすこむい
お もしえが

ば か者
ふ ざけ者
お こられた
こ わい
じ ょうだん
ら くでない
間 引く
取 りかか
は ずかか
取 りかか
お かしい
お もしろ

23 見ざる言わざる聞かざる (石碑)

他人の悪いところを見たり、言ったり、聞いたりしない、
心を抱きがちだが、他人のことはとむやみに詮索したり、
噂し合うこととは、恥ずべきことには必要でないから、わか
ても知らんふりして、後難を恐れて、あるいは単に面倒か
の悪事を見て、見ぬふりをすれば、あるいは単に面倒かとい
しない場合、むしろよく使われることも、肯定的に使用され
らなことが、この表現自体、必ずしも肯定的に使用されると
する人も多いことと、思わざるを聞いただけで三猿の像をイ
て、三猿に作られたこととは、広く知られていま、今古くは、
に盛んに造られた庚申塔に刻まれます。今日では、土産物の
ツズなどに、その日に神道では猿田彦、仏教なら帝釈天、
さるで、その日に神道では猿田彦、仏教なら帝釈天、
やくて、また、青面金剛(しよめこんごう)を祭り、
うては、一晚中寝ずに起きていて、昔話などをする風習があ
うです。青面金剛も猿の顔で表されることが多かったよう

4
ぎつともすた
ぎつつり
ギブアップ
いっぱい

く
くなん
くさん
くつたぎる
くつちやぐる
くわご
くまん
来るない
ください
おまえ
くいちぎる
くつぶる
くわの実
老いてる

け
けちやむくれ
けつてこ
けつてか
けづる
げえーる
けいなる
けいなる
けがぬ
うら返し
用ってこい
あさる
下さる
おしり
かえる
うで
削る
モクスガニ



モクスガニ

21 「安永風土記御用書出」(1)

伊達政宗は主家が滅び伊達家臣となった者とか、
 武家は土地の地方行政上に、重く用いました。元々は、
 代から肝入とか大肝入という村役を置いて、食糧生産の
 を統制していたと言われ、良い慣例は充分生かしたと伝え
 用いたわけではなく、良い慣例は充分生かしたと伝えら
 す。

史実として残された記録に、安永三年(一七七四)の各村
 らの書出(今日の報告書)をまとめた藩の備者・田辺希元が
 纂した『安永風土記御用書出』の写書は、各村の肝入に渡
 れたようです。

*書出は六年かけて安永九年に編集が完成されました。
 『安永風土記御用書出』は仙台藩の貴重な記録書となっ
 しかし各村に渡された書出は、完全に残っているものも
 に残っているもの、全く残っていないもの、果内各町村
 三十年頃編集された『宮城県史』に、果内各町村の書出
 され発刊されました。

○腰掛け石
 これらは、前の道路の沿線にあたる津田の赤丸峠の頂上から少し下ったところにあたり、長さ1.67m、幅約1mの石で、もと頂上にあつたといふが、戦後の改修工事では、いまのところまで六上七下つたといふ。津田の平地を見渡したとき、腰掛けで、田の松や白石川、津田の平地を見渡したとき、腰掛けの手、指の跡らしい凹みがあるので、手跡石とも言われている。す。○足跡石
 これは、義経の足跡のついた石といわれてきましたが、はありませぬ。中丸屋敷の東の道路沿いにありましたが、の道路改修工事で、この石も休止も道路の下に隠されて、見ることにはできなくなっています。い戦い後

5

こ

ござぶつ
 ごしやがった
 こっばやいた
 ごしえっぱらやける
 ござつたないん
 こねえだ
 ごっつおさん
 このげ
 こわくねが
 こいやく
 こすやく
 こたこた
 さでばさ
 さんど豆
 さくから
 さつかけ

ねていること
 おこられた
 早い
 腹立つ
 よくきてくれたね
 このあいだ
 ごちそうさん
 まゆげ
 つかれないか
 物置
 なまいき
 こする
 つかれてふらふら
 急ぎ
 さやえんどう
 さくらんぼ
 下屋
 おこり顔

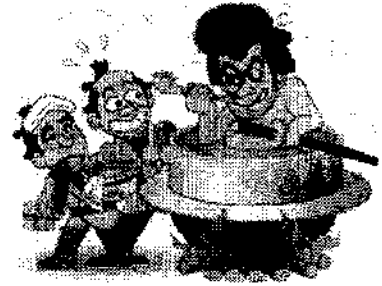


さくらんぼ

し

ずすすすすすすすすししししししししししししししししししし6
 らまげすかうなねんっどえやじんやずっよよす
 っえねばんねこがなついでいんんやぬまねしよよでのた
 と えりぼんい くる だ ぬめかぐす したよてのた
 わ ち ちゃ

変形・いびつ
 前の主人
 ひろってこい
 お風呂、てっぼぶろ、ごえもんぶろ
 うるさいこと
 手におえない
 引き抜く
 ひざないです
 知らないです
 先日はこと
 つらいこと
 つる
 なくなる
 しませんか
 かみきれない
 えごま
 すいば草
 やつまた草
 さみしい草
 片付けろ
 すっかり
 心配



ごえもんぶろ

19 石に刻まれた義経伝説(1)

義経東下りの道

同地区には、義経の平泉下向の道順を歌った俗謡があります。
 「松坂」の節まわして、宴席などでみんなが合唱したものだと言われていいます。
 「大町超えれば菊面石、誰が立てたか犬卒塔婆、三本柄の下馬の橋、どう百目木(どうめき)に差し掛り、数はなけれど数取石、一年五葉のすみだ坂、赤丸峠に腰を掛け、沖を遙かに眺むれば、塚田の松を左手(ゆんで)に見て、鴨が渡しをすはと超え、籠石明神(かごいしみょうじん)伏し拝み、夜はほのほの小豆坂、早や金ヶ瀬に着きにけり。」
 記この地方の中世の幹線道路を歌に読み込んだもので、「風土記御用書出」に出てくる地名が多く出ています。犬卒都婆から金ヶ瀬にぬけるこの古い道路の沿線に名所旧跡が多いようです。

京塚 犬卒都婆の上にあるこの塚は、「風土記御用書出」によれば、高き三尺（91cm）、周囲5間（9.09m）で、上に梵字のある石が見られるが、由来は不明と記され、たが、このときの前九年の役で戦死した官軍の墓なので京塚とい名付けたと書われています。

七曜塚

犬卒都婆地区には、ほかに七基の塚が畑の中などに散在している。七基あるため七曜塚と呼ばれるとされた。特にこれを防くため、七基ある家の間に及ぶ恐れがあるのを、習わぬようにした。いま、これら七基を建てて残っている風習がないようです。

7

す	す	す	す	す
す	す	す	す	す
す	す	す	す	す
す	す	す	す	す
す	す	す	す	す
す	す	す	す	す
す	す	す	す	す

順序よく	きらいだ	蜂	つば	しみつたれ	あいそうがない	そうしたら	戸を開める	つらら	トイレくみとり	泣きながら	さがす	トイレすました	しょうゆう
------	------	---	----	-------	---------	-------	-------	-----	---------	-------	-----	---------	-------

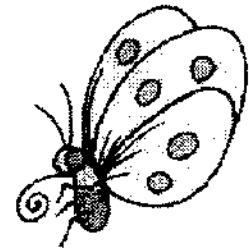


蜂

たっぺちやねっ
ちやわがこんい
ちあがむ
ちやんり
ちようま
ちよすなめた

つとばちりこい
つんつこまる
つむつばな
つつつな
つつかかる
つろ
でまかせ

氷早くいけ
来ていけない
小さいむ
しやが木をたく所
だんりさん
ちヨウチヨウ
さわなるな
切りつめた



チョウチョウ

室町時代

東北（とおきた）窯跡

このころの遺物として常滑焼などの中世陶器が特徴的に見られますが、白石市では白川犬卒都婆（いぬそとば）地区で中世陶器を大規模に生産した窯跡（とおきた）古窯跡群（つば）が確認されています。ここからは大壺（おおがめ）・壺（つば）・摺鉢（すりばち）などが大量に出土し、当時この周辺が一大窯業地帯であったことを物語っています。

ぬ に な と て				ん わ ろ る			
ぬぬぬぬぬぬ	なななななな	とと	てて ⁹	んん	わわ	ろろ	るる
すらがろんさ	ぬんさすんづ	とん	でな	だま	わり	ろく	るく
ずん	すぼなただち	み	つ	く	があんし	な	ず
	っやいなも	ぎ	け	い	わねえ	もの	ね
	たえいねえ	と	らん	ね	ね	で	え
	ん ねえ		ね			ねえ	
西二も煮ニお	ない返生たとひ	とと	手	そお	わわ	良良	親
ラ二みな	にくさんとたい	んん	にお	うい	わわ	いい	ば
が	さなでえい	も	え	ま	わわ	もの	か
ら	い	も	ない	い	わわ	ので	
い	し	ろ	こと	く	わわ	ない	
ん	ら	こ		な	わわ	い	
	で	し		い	わわ	で	
	ま	い		く	わわ	ない	
	す	こと		な	わわ	い	
	か			い	わわ	い	
	か			い	わわ	い	

り ら よ

らちあかないえ
らつあねえ
らずもねえ
よいぼり
よわんどごねえ
よつづくみえ

15

ちらがす
とんでもない
がまづみ
すまなみ
よなべい
よふかし

（注）「らちあかない」は、常用語です。

は の ね

はんころす
はだんつめ
はなすくひあん
のらつこえる
のつちお
のつちお
のらつこえる
ねくさる
ねんかす
ねんかす
ねえが

10

おはぎもち
はじっこ
はじっこ
はらんばいになる
出歩くはねる
とびはねる
背を伸す
でたらめ
ねむんかしょうこ
ねむんかしょうこ
ねむんかしょうこ
ねむんかしょうこ

も

1
4

や

もももももも
うっぞっつんち
がてくちさち
んこらりり
ねい

ゆ

やややややや
っぢんろかぼく
としもだめむつ
こやぶごらいら
ねだ

もめごと

(注意 もんちやく(団着)は、常用語です。)

ぼんや

ワンカツプ

はねおきる

はねおきる

わねわからぬこと

わねわからぬこと

びつたり

びつたり

わざと

わざと

しめっと

しめっと

うらやみ

うらやみ

男の子

男の子

いやだ

いやだ

うわき

うわき

よしかた

よしかた

ゆすらうめ

ゆすらうめ

は

1
1

はいのう(背負)

背負う四角の袋

(注意 はいのうは、常用語です。)

ばばる

わかる

ばふまねす

はつきり

場所めぐらない

びだぬれ

びしょぬれ

ぶざま

みぐるしい

(注意 ぶざまは、常用語です。)

ぶんごむ

こたつに足を入れる

ぶんちよむ

折った

ぶちよむ

追いかける

ぶちよむ

やぶくたう

ぶちよむ

とんでたう

ぶちよむ

ふくでたう

ぶちよむ

借金倒す

ぶちよむ

ふじげあがる

